



2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月5日

上場会社名 株式会社AOKIホールディングス 上場取引所 東
 コード番号 8214 URL https://www.aoki-hd.co.jp/
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 青木 彰宏
 問合せ先責任者(役職名) 取締役副社長 (氏名) 田村 春生 (TEL) 045-941-1388
 四半期報告書提出予定日 2021年2月8日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	94,673	△25.5	△12,141	—	△12,857	—	△11,441	—
2020年3月期第3四半期	127,111	△5.5	937	△79.4	△99	—	△1,339	—

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 △10,872百万円(—%) 2020年3月期第3四半期 △1,605百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
2021年3月期第3四半期	円 銭 △135.00	円 銭 —
2020年3月期第3四半期	△15.62	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2021年3月期第3四半期	百万円 238,838	百万円 125,779	% 52.5
2020年3月期	229,843	139,209	60.5

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 125,390百万円 2020年3月期 138,981百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2020年3月期	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 —	円 銭 23.00	円 銭 46.00
2021年3月期	—	10.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	13.00	23.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭	
通期	151,300	△16.0	△2,000	—	△3,000	—	△5,350	—	△63.12	

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期3Q	90,649,504株	2020年3月期	90,649,504株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	5,853,214株	2020年3月期	5,974,058株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期3Q	84,748,030株	2020年3月期3Q	85,784,575株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料3ページ「(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料)

・四半期決算補足説明資料については、2021年2月5日(金)の決算発表後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

	頁
1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	6
四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	8
(重要な後発事象)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症（以下、「同感染症」といいます。）が夏場の拡大後11月下旬頃より急速な拡大傾向となり、外出自粛要請による経済活動の停滞等により厳しい状況となりました。また、同感染症の収束の見通しは立たず、先行きは予断を許さない状況が続いております。

このような環境のなかで、当社グループは各事業において下記のような諸施策を実施しましたが、同感染症の影響を大きく受け売上高は946億73百万円（前年同期比25.5%減）、営業損失は121億41百万円（前年同期は営業利益9億37百万円）、経常損失は128億57百万円（前年同期は経常損失99百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は114億41百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失13億39百万円）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりです。

(ファッション事業)

ファッション事業では、「きちんと映えて、しかもラク」をテーマに高性能セットアップスーツやリモートワークに適したニットやカーディガン等の商品群を提案するとともに、パジャマのリラックス感とスーツのきちんと感を併せ持ち、ビジネス・リモート・カジュアル・ホーム・アスレジャーの装いが1着でかなうニットやジャージ素材のセットアップ「パジャマスーツ」及び感染予防対策商品として、「抗菌・洗えるマスク、抗ウイルスマスク」に加え、抗ウイルス・制菌加工を施したシャツやハンカチ等を発売いたしました。さらに、レディース商品では活動的な大人の女性をターゲットに「SUITS BY JUNKO SHIMADA」を新たに展開いたしました。また、店舗とオンラインショップの連動施策として、スタッフスナップでのお客様へのデジタルアプローチを強化いたしました。店舗面では、ORIHICAで3店舗を新規出店した一方、営業効率改善のためAOKIで5店舗、ORIHICAで3店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は633店舗（前期末638店舗）となりました。

これらの結果、前年に消費増税があった10月の売上高はプラスに転じたものの、11月以降の同感染症拡大に伴う外出自粛の影響等により、売上高は531億48百万円（前年同期比18.6%減）、営業損失は48億78百万円（前年同期は営業損失19億40百万円）となりました。

(アニヴェルセル・ブライダル事業)

アニヴェルセル・ブライダル事業は、新生活様式に合わせたウェディングスタイルの提案及びインスタグラム等のSNSを活用した販促を強化し、集客力の向上に努めました。また、アニヴェルセルカフェ表参道では、イタリア・ローマを代表するラグジュアリーブランド、フェンディ（FENDI）とコラボレーションした「フェンディ カフェ バイ アニヴェルセル（FENDI CAFE by ANNIVERSAIRE）」を期間限定でオープンし、多くのお客様にご来店いただいております。

これらの施策を実施しコスト削減にも努めましたが、挙式・披露宴の延期等により施行組数が減少し、売上高は53億29百万円（前年同期比70.1%減）、営業損失は26億3百万円（前年同期は営業利益7億47百万円）となりました。

(エンターテイメント事業)

エンターテイメント事業では、同感染症への対策を徹底し営業を継続してまいりました。快活CLUBは鍵付完全個室や様々なサービスを提供し「シェアリングスペース」としての利用を促進するとともに、資格の総合スクール「LEC」の提供講座や「寺島文庫」オリジナル動画等の多彩なコンテンツの提案及び「焼きカレーフェア」、「快活の神ポテトコーンポタージュ味」等の食事メニューを提供いたしました。コート・ダジュールは、スポーツ・チャンネルDAZN（ダゾーン）を全店に導入し、個室でライブスポーツをお楽しみいただける新しいスポーツ観戦スタイルを提案いたしました。店舗面では、快活CLUBで50店舗、FIT24で18店舗を新規出店した一方、営業効率改善のため9店舗を閉鎖した結果、当第3四半期末の店舗数は661店舗（前期末602店舗）となりました。

これらの施策を実施いたしましたが、同感染症の急速な拡大に伴う外出自粛の影響及び新規出店に伴う費用の増加等により、売上高は352億64百万円（前年同期比18.3%減）、営業損失は55億17百万円（前年同期は営業利益16億92百万円）となりました。

(不動産賃貸事業)

不動産賃貸事業では、各事業の閉店店舗の賃貸を推し進めたこと等により、売上高は28億98百万円（前年同期比9.4%増）、営業利益は5億86百万円（前年同期比14.4%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期連結会計期間末の総資産は、新規出店等により前連結会計年度末と比べ89億94百万円増加し、2,388億38百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が借入れの実施等により62億24百万円増加した一方、売掛金が季節的要因等により33億61百万円、たな卸資産が仕入高の減少等により26億88百万円及び未収入金等のその他が18億58百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ16億89百万円減少いたしました。固定資産は、有形固定資産が新規出店等により56億67百万円及び繰延税金資産等のその他が52億3百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ106億83百万円増加いたしました。

(負債)

流動負債は、買掛金が季節的要因等により43億87百万円減少した一方、短期借入金が150億円及び電子記録債務が40億59百万円増加したこと等により前連結会計年度末と比べ153億8百万円増加いたしました。固定負債は、長期借入金が110億円の借入れと約定返済等の結果66億24百万円増加したこと等により、前連結会計年度末と比べ71億15百万円増加いたしました。

(純資産)

純資産の部は、利益剰余金が親会社株主に帰属する四半期純損失及び剰余金の配当の結果142億36百万円減少したこと等により、前連結会計年度末と比べ134億30百万円減少しております。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間の業績について、11月下旬頃より新型コロナウイルス感染症が急速に拡大し外出自粛の要請が強まったこと等により、予想よりもエンターテインメント事業で影響を受けましたが、全体として売上高及び営業利益は通期予想の進捗に対して概ね想定どおり推移いたしました。一方、株価の下落等により投資有価証券評価損等の特別損失が発生いたしました。

今後については、1月に入り同感染症の拡大に伴い日本政府による緊急事態宣言が発出されたこと等により、現時点でも各事業の売上高は厳しい状況が継続しております。詳細については添付資料9ページの(重要な後発事象)をご覧ください。このような状況が長引くこととなった場合には業績への影響が懸念されますが、ファッション事業は、第4四半期(特に2月後半から3月)が通期業績に対するウエイトが高いため、2020年11月6日に公表した通期業績予想の修正は行っておりません。なお、開示すべき状況が明らかになった場合には速やかにお知らせいたします。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	23,843	30,068
売掛金	8,455	5,094
たな卸資産	24,181	21,493
その他	8,851	6,993
貸倒引当金	△36	△41
流動資産合計	65,297	63,607
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	66,501	71,501
土地	36,138	36,138
その他（純額）	14,893	15,560
有形固定資産合計	117,533	123,200
無形固定資産	5,631	5,537
投資その他の資産		
差入保証金	7,740	7,465
敷金	20,653	20,834
その他	13,028	18,231
貸倒引当金	△40	△40
投資その他の資産合計	41,382	46,491
固定資産合計	164,546	175,230
資産合計	229,843	238,838

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	14,563	10,176
電子記録債務	—	4,059
短期借入金	—	15,000
1年内返済予定の長期借入金	3,493	5,418
未払法人税等	407	310
賞与引当金	1,357	708
役員賞与引当金	39	62
その他	12,727	12,161
流動負債合計	32,587	47,896
固定負債		
長期借入金	40,332	46,956
ポイント引当金	695	535
退職給付に係る負債	1,276	1,333
資産除去債務	7,591	7,565
その他	8,150	8,771
固定負債合計	58,046	65,162
負債合計	90,634	113,058
純資産の部		
株主資本		
資本金	23,282	23,282
資本剰余金	27,823	27,747
利益剰余金	96,298	82,061
自己株式	△7,592	△7,438
株主資本合計	139,812	125,653
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△726	△206
退職給付に係る調整累計額	△105	△56
その他の包括利益累計額合計	△831	△263
新株予約権	228	389
純資産合計	139,209	125,779
負債純資産合計	229,843	238,838

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自2019年4月1日 至2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年12月31日)
売上高	127,111	94,673
売上原価	77,375	67,238
売上総利益	49,735	27,435
販売費及び一般管理費	48,797	39,576
営業利益又は営業損失(△)	937	△12,141
営業外収益		
受取利息	59	50
受取配当金	56	27
その他	158	178
営業外収益合計	274	256
営業外費用		
支払利息	209	267
固定資産除却損	629	405
その他	472	299
営業外費用合計	1,311	972
経常損失(△)	△99	△12,857
特別利益		
固定資産売却益	55	—
投資有価証券売却益	100	4
新株予約権戻入益	4	—
雇用調整助成金等	—	637
特別利益合計	160	642
特別損失		
減損損失	1,359	1,242
災害による損失	169	—
投資有価証券評価損	72	919
臨時休業等による損失	—	1,990
事業構造改善費用	—	202
特別損失合計	1,601	4,355
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,540	△16,569
法人税、住民税及び事業税	565	448
法人税等調整額	△765	△5,576
法人税等合計	△200	△5,128
四半期純損失(△)	△1,339	△11,441
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,339	△11,441

四半期連結包括利益計算書
第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純損失(△)	△1,339	△11,441
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△307	519
退職給付に係る調整額	41	48
その他の包括利益合計	△266	568
四半期包括利益	△1,605	△10,872
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,605	△10,872
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

該当事項はありません。

(追加情報)

(会計上の見積り)

新型コロナウイルス感染症(以下、「同感染症」といいます。)の影響は、現在においても継続しており、当社グループの事業活動にも大きな影響を及ぼしております。

同感染症の拡大による影響は、各事業において当社グループが店舗展開する国内全ての地域において今後も一定程度の広がりを見せ、関係する店舗における売上高、営業利益は、同感染症が収束し国内の経済活動が回復するまでの間、店舗の稼働状況、需要の低下等に応じて減少する可能性があります。それぞれの事業において、当連結会計年度の売上高は、同感染症の影響を受けた前連結会計年度と比べ、ファッション事業で5%から30%程度、アニヴェルセル・ブライダル事業で40%から60%程度及びエンターテイメント事業で10%から40%程度減少する可能性がありますと見込んでおります。

当社グループは、同感染症の今後の広がり方や収束時期等を含む仮定に関する考え方に重要な変更はありませんが、最善の見積りとして、最長で2022年3月末に経済活動が同感染症の拡大以前に戻るシナリオを想定しており、固定資産の減損の兆候は2021年3月期業績見通しをもとに判定し、固定資産の減損の認識及び測定や繰延税金資産の回収可能性などの会計上の見積りの一部については、期待値法による方法を用いて財務諸表計上額を算定しております。

(セグメント情報等)

前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	ファッション 事業	アニヴェル セル・ブラ イダル事業	エンターテ イメント 事業	不動産賃貸 事業	合計		
売上高							
外部顧客への売上高	65,263	17,793	43,140	913	127,111	—	127,111
セグメント間の内部 売上高又は振替高	1	8	0	1,735	1,745	△1,745	—
計	65,265	17,802	43,140	2,648	128,856	△1,745	127,111
セグメント利益 又は損失(△)	△1,940	747	1,692	512	1,011	△74	937

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△74百万円には、セグメント間取引消去3,158百万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,232百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

2. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「エンターテイメント事業」及び「不動産賃貸事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続してマイナスとなる営業店舗及び転貸店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ717百万円、434百万円及び206百万円です。

当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	ファッ ション 事業	アニヴェ ルセル・ブ ライダル 事業	エンター テイメン ト 事業	不動産賃 貸事業	計				
売上高									
外部顧客への売上高	53,132	5,329	35,264	869	94,595	78	94,673	—	94,673
セグメント間の内部 売上高又は振替高	15	0	—	2,029	2,045	—	2,045	△2,045	—
計	53,148	5,329	35,264	2,898	96,640	78	96,719	△2,045	94,673
セグメント利益 又は損失(△)	△4,878	△2,603	△5,517	586	△12,413	58	△12,354	213	△12,141

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、広告関連事業です。

2. セグメント利益又は損失の調整額213百万円には、セグメント間取引消去3,247万円及び各報告セグメントに配分していない全社費用△3,033百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない提出会社の管理部門等の費用です。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「ファッション事業」、「アニヴェルセル・ブライダル事業」及び「エンターテイメント事業」の各セグメントにおいて、店舗の閉鎖や業態転換が決定し又は損益が継続的にマイナスとなり回収が見込めなくなった営業店舗について減損損失を認識いたしました。なお、当該減損損失の計上額は、当第3四半期連結累計期間においてはそれぞれ185百万円、601百万円及び455百万円です。

(重要な後発事象)

(新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う2021年1月以降の緊急事態宣言及び店舗時間短縮営業等による影響)

新型コロナウイルス感染症の拡大並びに2021年1月7日及び13日の日本政府による緊急事態宣言に伴い、外出自粛要請の強まりやファッション事業及びエンターテイメント事業のカラオケにおける店舗で臨時休業や時間短縮営業を行っていることで、現時点でも売上高減少の影響が継続しております。

ファッション事業では、11都府県の約100店舗で時間短縮営業を行い、アニヴェルセル・ブライダル事業では、約370組程度の挙式・披露宴の日程変更等が発生しております。また、エンターテイメント事業では、カラオケのコート・ダジュールが11都府県の15店舗で臨時休業及び59店舗で時間短縮営業を行っております。

2021年2月2日に10都府県における緊急事態宣言の延長が決定されたことで、特にファッション事業では2月後半から3月の入学・入社マーケット需要に影響があり、アニヴェルセル・ブライダル事業では日程変更等により、カラオケは時間短縮営業等で、当連結会計年度の財政状態及び経営成績に重要な影響を与える可能性が見込まれるものの、影響額を現時点において合理的に算定することは困難です。

なお、現時点において第3四半期連結会計期間末時点の会計上の見積りに大きな影響を与えるものではないと判断しております。